

大転換する世界と日本の道

「CHINDIA世紀の到来」

- 22世紀に向けて日本がとるべき戦略

名古屋市立大学22世紀研究所特任教授
日本ビジネスインテリジェンス協会会長
元東京経済大学経営学部大学院教授

中川 十郎

中・露が主導するSCO（上海協力機構）

- ✓ SCO（上海協力機構）とは・・・

中国とロシアが主導するユーラシア地域の安全保障・経済協力のための枠組み

- 10ヶ国
 - ・加盟国：インド、パキスタン、イラン、カザフスタンなど
 - ・対話パートナー：トルコ、サウジアラビア、ラオスなど
 - ・オブザーバー国：アフガニスタン、モンゴルなど

- ✓ 2025年8月31日～9月1日、中国・天津でSCO首脳会議を開催
 - ・20ヶ国の首脳が出席 ⇒ グローバルサウスの結束を象徴するもの

SCOを取り巻く最近の動き①

－ トランプ米大統領による高関税政策の発動

- ✓ トランプ政権が高関税政策を乱発
⇒ グローバルサウスが中国、インドを中心に結束を強化
- ✓ 南米ブラジル、インドに対しても、50%の高関税を賦課
⇒ 米国とブラジル・インドとの関係も悪化の一途へ

**中国・インドを中心としたSCO・BRICSの結束が
強化される契機に**

SCOを取り巻く最近の動き②

－ 中国の国際影響力の拡大

- ✓ トランプ政権がUSAID（米国開発局）を廃止
⇒ 米国の新興・途上国への支援が後退
- ✓ 中国は一带一路構想を通じて、途上国への貿易・物流・インフラ整備を拡大
⇒ 中国の途上国への影響が強まる可能性
- ✓ ASEAN（10ヶ国）はSCOオブザーバーとして参加する一方で、中国は、南寧で、毎年、ASEAN貿易見本市を開催
⇒ 中国はASEANとの経済連携をさらに強化

中国のグローバルサウスへの主導権がさらに高まる見込み

SCOの存在感の高まり

✓ “数字”から見るSCO

SCOの加盟国 … 10ヶ国（インド、ロシア、イラン、中央アジア諸国など）

- ・人口 : 34億人 ⇒ 世界の42% (2024年)
- ・GDP : 2.2兆ドル ⇒ 世界の25% (2023年)
- ・貿易額 : 8兆ドル ⇒ 世界の18% (2022年)

✓ 拡大の一途をたどるSCOの影響力

- ・1996年 「上海ファイブ」（中・露・カザフ・キルギス・タジクスタン）として発足
- ・2001年 ウズベキスタンが加盟
- ・2017年以降 さらに、インド、パキスタン、イラン、ベラルーシが加盟

⇒ 南西アジア、東欧まで広がる中央アジア広域経済圏を構築

中国による「天津宣言」と人民元戦略

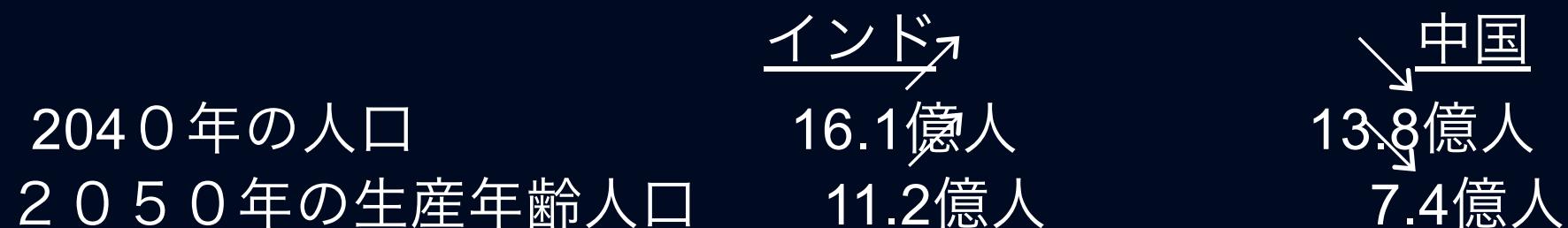
- ✓ SCOを構成する地域は、中国の広域経済圏構想「一带一路」の中心地域
- ✓ 2025年9月、習近平主席が、2035年までのSCO発展戦略「天津宣言」に署名
 - ⇒ 米国中心の国際秩序からの脱却、多国間主義の推進・実現
人民元建て融資の拡大による非ドル決済網の構築
- ✓ 加えて、今回の天津SCO会議では、SCO開発銀行の早期設立を表明
 - ⇒ 中国が過去に設立したAIIB※、BRICS銀行と連携し、人民元決済を拡大
- ✓ 中国の「海上シルクロード構想」（北極海航路を活用した新物流ルート）
 - ⇒ 欧州への貨物輸送を開始 ... 従来（中東経由）の40日を18日に短縮
中国の北極圏進出は地政学的にも注目される動きで、今後も要注視

BRICSの動きとも合わせ、中国を中心とするロシア、インドなどSCOの動きへの注目が必要

インドとTICAD（アフリカ開発東京会議）の動向

✓ インドの状況

- ・好調な経済 ... 実質GDP成長率：7.8% (2025年4～6月期)
- ・向こう20～30年は「人口ボーナス期」 ... 減少傾向の中国と対照的



- ## ✓ 2025年8月、TICAD9(第9回アフリカ開発東京国際会議)が横浜で開催
- ... 54ヶ国からなるアフリカのトランプ高関税対応策に高い関心

期間中開催された“TICAD ビジネスExpo&Conference”(JETRO主催)
... 出展企業200社で過去最高、MOU(覚書)交換も300件超

経済戦略におけるインド・アフリカの重要性

- ✓ アフリカは「最後のフロンティア」
- ✓ 日本は「インド洋・アフリカ巨大経済圏」の構築を目指すべき
 - ・ インド・トルコ・中東など第三国との連携が戦略の柱
(英・仏・ベルギーなど旧宗主国との連携も一部にあり)
 - ・ 日本政府が本年2月に提唱した「アフリカの持続可能な経済発展のための民間投資」
 - 日印協力イニシアティブ」の下、インドへの産業集積、アフリカへの雇用創出、人財育成の取り組みのさらなる促進が求められる
- ✓ 日本企業は、以下の点に鑑み、インド経由のアフリカ向け輸出、そのためのデジタル物流網構築に尽力することが重要
 - ・ インドとアフリカの地理的・歴史的な近接性

トルコとの連携強化

✓ トルコ ...

中央アジア、中東、特に北アフリカと歴史的・宗教的（回教圏）に
関係深い

⇒ ダニエル・ベル博士も来日時の講演で、トルコの中央アジア、
中東、
北アフリカへの影響力の強さ、地政学的重要性を指摘

✓ 日本の総合商社×トルコのゼネコンで、ウズベキスタンに、病床800の病
院、100万kwの風力発電所、160万kwの火力発電所の開発を進めてい
る

インドと並び、アフリカでのトルコ企業との連携・協力も推進す
べき

中国のアフリカ戦略と日本の対応

- ✓ アフリカの人口
 - ・ 15億人（2025年） ⇒ 25億人（2050年）
... 「世界人口の4人に1人がアフリカ人」
 - ・ 21世紀後半～22世紀に、アフリカは「残された最大のマーケット」になる
- ✓ 中国は「一带一路」広域経済圏構想で、アフリカに攻勢
 - ・ 中国のアフリカ投資（2025年上半期）：400億ドル（全体の3割強）
・ アフリカのレアメタル・鉱物資源の確保を目指し、インフラを整備

日本は、インド、トルコなどアフリカとの関係が深い国々に加え、アフリカ進出に熱心な中国も含め、Win-Winの関係で、競争と協力のバランスをとりながらアフリカ戦略を進めることが重要

まとめ

- ✓ 21世紀前半は中国、後半はインドを含むアジアの時代
- ✓ 21世紀後半から22世紀にかけては、アフリカの世紀が到来

- 
- ・日本のグローバル・マーケティング戦略は、今後躍進する中国、
イン
ド、アジアを中心に、未来の大市場アフリカ攻略が決め手
 - ・インド、トルコ、さらには中国をも活用した「アフリカ戦略」
を提言
 - ・筆者が提唱している「CHINDIA」（中国・インド戦略）に加え、
「AACI」（ASEAN・アフリカ・中国・インド戦略）に日本が

ご清聴ありがとうございました